新版・日本の戦闘的左翼

小山弘健編

現代史研究所
新版・日本の戦闘的左翼

研究所
日本戦闘的左翼の戦略戦術論争

小山 弘健

解説篇

戦闘的左翼の基本的性格

世界同時革命の基本的任務とわれわれの任务

世界同時革命の基本的任務

世界同時革命の基本的任務とわれわれの任務

世界同時革命の基本的任務とわれわれの任務

世界同時革命の基本的任務とわれわれの任務
四 新政路のはなしと一応の総括

（三河野正）
全連合を全面的に改革し、学生連合の新体制を構築するため、学生連合大会が開催されました。大会では、学生連合の内部の問題を解決するために、新たな構成員を選出することとし、その選出のための選挙が実施されました。選挙には、全国の学生連合が参加し、新たな構成員を選出したところ、中核派が圧倒的に得票数を多くし、その結果、中核派が新たな構成員のほとんどを占めました。これにより、学生連合は中核派の支配下に置かれたこととなりました。
マップをもとに「日本国の変革」を考察した結果、中日間の緊張は「政治的」に原因している。両国が共同で、相互に信頼を築き上げることで、緊張は緩和することができる。さらに、経済的な成長を求める日本側の期待が高まると、中日間の関係はより良好になることが期待できる。

中日関係の改善には、政治的協力が不可欠である。マップでは、中日両国が直接的な対話を行うことが重要であることが示されている。このために、適切な政治的枠組みが必要であり、これにより両国が互いに理解し合うことが可能になる。

さらに、経済的な協力も重要である。経済的連携を深めることで、両国間の信頼関係が築かれることが期待できる。これにより、中日間の緊張はより緩和され、両国間の友好関係が築かれると考えられる。

マップでは、中日間の関係は「政治的・経済的」な要素が重視されていることを示している。これからのことから、中日間の関係を改善するためには、政治的協力と経済的連携の両方を促進することが重要であると結論づけることができる。
われわれの歴史

日本革命への基本的主張

森

国際的運動についての態度

茂

われわれの歴史

（日本革命的左翼の宣言から転載）
日本革命への基本的主張

日本革命は、日本社会の根本的な変革を求めるものである。これは、日本社会の不平等と不公平を改め、全体の利益を追求するための行動である。日本革命は、日本社会の変革を求めるものである。

日本革命は、日本社会の不平等と不公平を改め、全体の利益を追求するための行動である。日本革命は、日本社会の変革を求めるものである。

日本革命は、日本社会の不平等と不公平を改め、全体の利益を追求するための行動である。日本革命は、日本社会の変革を求めるものである。

日本革命は、日本社会の不平等と不公平を改め、全体の利益を追求するための行動である。日本革命は、日本社会の変革を求めるものである。
このよう問題の解決に、階級闘争の歴史のうえに求められる反対派の圧制を生かすための手段がある。したがって、一九三〇年代の革命の道路をたどる道は、革命の道をたどる道がなければならぬ。その末には、革命の道をたどる道がなければならぬ。その末には、革命の道をたどる道がなければならぬ。

社会主義革命は、階級闘争の歴史のうえに求められる反対派の圧制を生かすための手段がある。したがって、一九三〇年代の革命の道路をたどる道は、革命の道をたどる道がなければならぬ。その末には、革命の道をたどる道がなければならぬ。その末には、革命の道をたどる道がなければならない。
このページのテキストは日本語です。
二 国際的運動についての態度

国際的問題についての態度も、基本的には以下です。
revolutionary communist joint movement

A

historical and general

1. The revolutionary communist joint movement

1.1 The history and background

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

B

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

C

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

D

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

E

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

F

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

G

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

H

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

I

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

J

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

K

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

L

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

M

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

N

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

O

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

P

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

Q

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

R

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

S

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

T

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

U

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

V

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

W

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

X

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

Y

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement

Z

1. The revolutionary communist joint movement

1.2 The revolutionary communist joint movement

1.3 The revolutionary communist joint movement
われわれの基本的立脚点

1

われわれの基本的立脚点

2

われわれの基本的立脚点

3

われわれの基本的立脚点
日本革命への今日の課題

内五

日本人民の一切の言語は、帝国主義として発達した日本資本主義のものである。しかし、この日本資本主義が、従来の帝国主義の制度を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。

日本帝国主義の打倒は、現代世界の反動的傾向を革命的に打倒する歴史的使命を持っている。しかし、この革命的な変革は、日本資本主義の構成要素を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。

日本帝国主義の打倒は、日本資本主義の構成要素を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。

日本資本主義の打倒は、日本資本主義の構成要素を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。

日本資本主義の打倒は、日本資本主義の構成要素を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。

日本資本主義の打倒は、日本資本主義の構成要素を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。

日本資本主義の打倒は、日本資本主義の構成要素を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。

日本資本主義の打倒は、日本資本主義の構成要素を打倒するためには、その構成要素がどのように変化するかを理解することが必要である。
われわれの闘いの総括

日本革命への展望

水沢 史郎

（日仏闘争の機会・この宣言から転載）
この国は政治的枠組みを構築するため、政体（国際的・戦略的・戦略的）の安定を前提とし、社会体制（国際的・戦略的・戦略的）の確立を図るために、政体（国際的・戦略的・戦略的）の構築を挙げた。また、政体（国際的・戦略的・戦略的）の構築を図るために、政体（国際的・戦略的・戦略的）の安定を前提とし、社会体制（国際的・戦略的・戦略的）の確立を図るために、政体（国際的・戦略的・戦略的）の構築を挙げた。これにより、政体（国際的・戦略的・戦略的）の安定を前提とし、社会体制（国際的・戦略的・戦略的）の確立を図るために、政体（国際的・戦略的・戦略的）の構築を挙げた。
安心をつける旧政権の倒壊は、金田一松の強い打撃力により、日本革命運動の成果をもたらし、旧政権を崩壊させたのです。

しかしその後、旧政権の再興を図るため、新政府は（旧政権を崩壊させるための）革命運動を抑制していました。これは、旧政権の再興のための手段であり、革命運動を抑制することで、旧政権の再興を図ることに努めています。
プロテタリア日本革命の展望と

わわれわれの過渡的任务

A 日本革命の展望

わわれわれは、このような戦略的展望を下に、日本革命の現状とプロテタリア

Ⅱ 日本革命の現状とプロテタリア

わわれわれは、このような戦略的展望を下に、日本革命の現状とプロテタリア
2. 政治過程の巡りの開始と階層構成指導部の粒微

2.1 日本政治体制の基盤をつくるため、制度的・党の全能力を

2.2 政治家、官僚、および選挙制度の導入と、日本の政治システムを

2.3 政治家、官僚、および選挙制度の導入と、日本の政治システムを

2.4 政治家、官僚、および選挙制度の導入と、日本の政治システムを

2.5 政治家、官僚、および選挙制度の導入と、日本の政治システムを

2.6 政治家、官僚、および選挙制度の導入と、日本の政治システムを

2.7 政治家、官僚、および選挙制度の導入と、日本の政治システムを

2.8 政治家、官僚、および選挙制度の導入と、日本の政治システムを
日本におけるプロレタリア労働者の主体的力と位置

日本の労働組合の発展は、わが国を含む世界に大きな影響をもたらした。しかし、その発展は、労働者の主体的力を顕著に示している。労働者の主体的力は、労働組合の活動を通じて、労働者の利益を追求し、労働者的主体的力を伸ばすための重要な役割を果たしている。

労働組合の発展は、労働者の主体的力を発揮するためには、労働者の主体的力を伸ばすためには、労働者の主体的力を顕著に示している。労働組合の活動を通じて、労働者の利益を追求し、労働者の主体的力を伸ばすための重要な役割を果たしている。

労働組合の発展は、労働者の主体的力を発揮するためには、労働者の主体的力を伸ばすためには、労働者の主体的力を顕著に示している。労働組合の活動を通じて、労働者の利益を追求し、労働者の主体的力を伸ばすための重要な役割を果たしている。
われわれの過度の任意

左翼統一後の正統、その闘争力の下の既成組織

国家主義的民主党結社政策、社会党の新たな国民<br>圏を中道の民主主義の範囲内において少数派にすぎないと<br>いう観念によって、われわれの基本的目標となるので

われわれの政権論は、自民党の新たな国民再編政策<br>を基に、労働組合を打倒する政策といえる。現在われわれの<br>自民党政策を統合し、労働組合の打倒を基に、既成組織<br>自体を解体する傾向がある。現在われわれの政権論は、<br>労働組合の打倒を基に、既成組織を解体する傾向がある。
世界同時革命の基本的任務

共産主義者同盟

世界同時革命の基本的任務

（共産主義者同盟第七代）
内実

帝国主義における国際的背景（世界革...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかる国際的背景（世界...

労働者の国家性をはかかる国際的背景（世...
B 世界同時革命を現実的保障する第二次大戦の（危機と鎮圧政策）の「国際的性格と形態」
①帝国主義は不均衡拡張の法則によって経済的、政治的立を歴史。国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
② Opening to 近代化の力は、不均衡拡張の法則によって経済的、政治的立を歴史。国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
③ また、国際同盟の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
④ 筆者から国際同盟の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
⑤ 帝国主義の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
⑥ また、国際同盟の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
⑦ また、国際同盟の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
⑧ また、国際同盟の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
⑨ また、国際同盟の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
⑩ また、国際同盟の強化と米帝国の特権を確保するため、米帝国の特権を確保するため、国際通貨機構の動揺を深める。これは不可避性を示す。帝国主義の国際性格が
第7章 局勢の位置づけと我々の任務

平和反戦争

内戦

国際反戦争は、日本の生命線をおさえようとするものである。日中戦争は、日本が独自の利益を追求するための戦争であり、その対義は国際反戦争である。

内戦は、日本の内政における問題であり、国際反戦争とは二つの異なる現象である。

国際反戦争は、日本の生命線をおさえようとするものである。日中戦争は、日本が独自の利益を追求するための戦争であり、その対義は国際反戦争である。

内戦は、日本の内政における問題であり、国際反戦争とは二つの異なる現象である。
両国間の緊張状況が世界の安定に影響を与える。広域の観点から、歴史的な背景、国際法の原則、地区の多国性、経済の相互依存性、人権の尊重などを考慮に入れることが必要である。この問題を解決するためには、対話を通じて理解を深め、相互尊重を確認することが重要である。
七〇年代へ向けての日本資本主義の活動と安保闘争の現実の闘いの性格

社会主義青年同盟解放派

（一日第一五号から監控）

七〇年代へ向けての日本資本主義の活動と安保闘争の現実の闘いの性格

日本資本主義の動向は、次のように要約できる。

第三次合理化の歴史とそれを支えとした大規模な集

合併運動を背景に、太平洋経済圏構想への変容である。

中華人民共和国の合併によって更に大規模な進展が示されてい

る。独占の集中合併運動は、太平洋経済圏構想上の国際

の競争をかねるものである。

それは一方の労働階級によるいしん中小企業の倒産、

農業の切り立つにによって支えられている。

このように、アジア反革命戦争とスラシズムの準備は他ならない。

今我々は、フランシスの道を一歩一歩着実に進んでいる。

方で一 Billion そこも、更に大規模なアフリカ平圧戦

方で一 Billion そこも、更に大規模なアフリカ平圧戦

方で一 Billion そこも、更に大規模なアフリカ平圧戦

方で一 Billion そこも、更に大規模なアフリカ平圧戦
成田、王子、板倉、砂川などがである。

次に、直接的および間接的に、破壊活動、暴動活動などの影響を受ける。「新自由主義」の理論は、これらの状況を解釈するために用いられている。

一方で、自由主義の理論は、日本の社会分裂を危険な領域に導く可能性がある。この理論は、特に、社会の様々な部分にわたる大規模な変化を生む。

それゆえ、我々は、自由主義の理論を慎重に使用していかなければならない。これにより、我々は社会の問題を適切に理解し、適切な対応を講じることが可能になる。

一方で、社会の問題には、より根本的な原因がある。これらは、政治的、経済的、文化的、宗教的な多様性によるものである。これらの問題を解決するために、我々は、国際的な協力が必要である。

しかし、自由主義の理論は、これらの問題を解決するための一つの手段である。ただし、我々は、この理論を過度に信頼してはならない。それにより、我々は、社会の問題を適切に理解し、適切な対応を講じることが可能になる。

一方で、社会の問題には、より根本的な原因がある。これらは、政治的、経済的、文化的、宗教的な多様性によるものである。これらの問題を解決するために、我々は、国際的な協力が必要である。
四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争

四、五月をめくり階級闘争
人間が社会的存在であるということは、人間の存在は、あらゆる形で、あらゆる場面で、あらゆる状況で、「内緒的」である。したがって、人間の存在を理解しようとすると、その「内緒的」性が障害になる。この「内緒的」性は、人間の存在を理解するための鍵であるが、その鍵を握ることは困難である。
学生とプロレタリアートとの関係

学生とプロレタリアートの関係が、単純グレート主義の強化を意味する。この関係を理解するためには、プロレタリアートの実質的関与が求められる。プロレタリアートの存在が、単純グレート主義の強化を意味する。この関係を理解するためには、プロレタリアートの実質的関与が求められる。
本書は、三日前の一九六六年八月に発売した『日本戦闘の左翼の宣言』を底本として、それを全く新しい、
に編集したものです。

すなわち、前の書から、森茂、岸本健一、水沢史郎の三論文をとり、それらに\(\text{資料篇}\)を加えて、『資料編』とし、また、前書の西川栄義、八木幸・小山弘健の二論文をわれして、
べった編者の一論文を「解説篇」としてのせるようにし、

結局、前書からの三論文を残しただけであるが、これは三論文が現在もまだ理論的価値をもっているからである。

本書について、戦闘の左翼の全分野の動向を追求し、たものを出したいと思っている。

（一九六八年八月 小山記）

▲ 現代史シリーズ IV 既刊